第 177 回友の会　伏見北堀公園

～伏見の郷の冬～

日　時　：2020 年 2 月 23 日（日）
場　所　：京都市伏見北堀公園
コース　：ＪＲ藤森駅～住宅街～伏見北堀公園～伏見桃山城～桓武天皇陵参道
天　候　：晴れ、一時みぞれ
参加者　：一般 52 名、スタッフ 16 名　　合計 68 名

昨日の雨から一転、朝から晴れていました。寒くなるとの予報でしたが、日が当たり寒さも和らいでいました。新型コロナウィルスの広がりから参加人数が心配でしたが、多くの人が参加してくださいました。

少し小高く眺めの良いＪＲ藤森駅から住宅地をぬけて、さらに坂を上がっていきました。伏見北堀公園の東の入口に到着。「区民誇りの木」と書かれた大きなムクロジの木が私たちを迎えてくれました。早速、足下を見て実と種を拾いました。昔、ムクロジの実は、洗濯に使ったそうです。水に入れて振ると泡が立ってきました。

入口を入ってすぐのところに白いアセビの花が咲いていました。蕾だけでなく、実も残っていて、蕾・花・実が同時に見られたということが面白いです。コブシは枝先にふさふさとした花芽をつけていました。モッコク、ワジュロ、シダレエンジュ、マルバヤナギなどが続けて出てきます。ナナミノキでは、葉をライターの火であぶり、黒く変色する「死環」を見てもらいました。

ナナミノキのすぐ横には紅葉した「ヒペリカム」という植物がありました。調べてみると、大きな黄色い花が咲くビヨウヤナギやキンシバイのようなオトギリソウ属のなかまを、園芸種も含めて「ヒペリカム（科名を学名で言ったもの)」と呼ぶのだそうです。

今回３カ所で植物の説明を行いました。１つめは大きなカツラの木についてです。冬場の雌株雄株の見た目の違い、秋の黄葉期の焦がし醤油のような香りの原因などを丁寧に行いました。２つめはカラスノエンドウやレンゲなどのマメ科の根に付いている根粒菌についてです。実物を見てもらいながら、はたらきと植物との関係などを分かりやすく行いました。３つめは伏見北堀公園内の道々でよく見かけて気になっていた赤い実、ナナミノキ

です。ナナミノキの名前の由来は「赤い実のゆがんだ形から、など諸説あり。」ということでした。３つともとても勉強になりました。

ウメが白い花を、ソシンロウバイは黄色い花を咲かせて早々と春の訪れを告げています。ピラカンサの一つであるヒマラヤトキワサンザシの赤い実を食べようと、メジロが 10 羽以上集まっていました。黄緑のからだ、黒い瞳に白い輪っかと、くちばしにくわえたヒマラヤトキワサンザシの赤い実がものすごくマッチしていました。下見のときは赤い実がかなりありましたが、当日はもう残り少なくなっていました。

さらに、カクレミノ、ユリノキ、キリ、コブシ、ハクモクレンと続いて昼食場所に到着しました。カクレミノはいろんな形の葉が混在している木です。ユリノキは職人が着る半纏（はんてん）のような葉をし、チューリップのような花を咲かせる木だそうです。キリとコブシは枝に残っている実から判断できました。ハクモクレンはコブシよりも大きな花芽をつけていました。花が咲いたらさぞかし見事でしょう。

お昼ご飯を食べ始めると予想もしていなかったみぞれ混じりの雨が降ってきました。用意の良い皆さんは傘をさしてその場をしのいでいました。

さて、昼食後の店開きでは、植物が寒い冬を乗り切る工夫である「ロゼット」状の植物 20 種類近くを広げて、それらの名前をみんなに当ててもらうゲームを行いました。「これはナズナだ」「あれはブタナか」と言いながら参加者がロゼットに名札をつけていきました。私にはとても難しくほとんど分かりませんでした。

その後、ハクモクレンとコブシが生えているところに行き、モクレン科の植物の説明を行いました。オガタマノキやホオノキ、タイサンボク、ユリノキも同じ仲間であるということが分かりました。

子ども広場を抜けてサッカー場、野球場の横を通って、伏見桃山城のところまで来ました。冬を通して葉を落とさないところからニンドウ（忍冬）と呼ばれているスイカズラ。アカメガシワの冬芽。枯れた花が残っていたヤブタバコ。アキニレなどが見られました。天守閣のすぐ脇には黄色い花が咲き始めているサンシュユがあり、まだ残っていた赤い実も見ることができました。大門を出たところには、東海道水口宿と石部宿の間の道沿いに見られたという有名なウツクシマツがありました。

この後、桓武天皇陵参道で解散となりましたが、明治天皇陵、乃木神社に続く道沿いに

ハクモクレン

ヒマラヤトキワサンザシ
（ピラカンサ）

ナナミノキ

店開きではロゼットに名前を付けていきました。

もいろいろな木が見られ、冬でも緑あふれる散策路になっていました。

細川　幾由

ヤツデ

たくさんのロゼット

ヒイラギナンテン

サンシュユ

カツラ（雌木）

ボケ

青色がきれいなオオイヌノフグリとヒメオドリコソウ

アセビ